

滞在型研究員報告書

Activity Report for the NAOJ Visiting Fellows Program

所 属 (Institution)	愛媛大学
氏 名 (Name)	小倉 和幸
研究課題名 (Research subject)	DLA 集中領域における輝線天体の探査
滞在期間 (Period of stay)	2016年5月5日～2016年5月22日 YYYY MM DD YYYY MM DD
受入責任者氏名 (NAOJ host researcher)	今西 昌俊

1. 滞在型研究員として国立天文台滞在中に行った活動について簡単にお書きください。 (Summarize your activities during the stay using the NAOJ Visiting Fellows Program.)
今回の滞在では、すばる望遠鏡 Suprime-Cam で昨年 4 月に取得した観測データに基づいて DLA (damped Lyα absorption system) が集中して存在する領域における LAE (Lyα emitter) の探査した成果を論文にまとめるために共同研究者である今西昌俊氏と議論を行いました。また、同様の研究に関する観測が 5 月 3 日 (ハワイ時間) にサービス観測として行われ、データを得ることができたので、サポート・アストロノマーである、仲田史明氏と寺居剛氏の助言を受けて、データ解析を行いました。さらに、すばるセミナーで講演時間を頂くことができ、現在論文にまとめている研究成果について発表することができました。
2. 今回滞在型研究員として得られた成果について簡単にお書きください。 (Summarize your research products from the stay.)
昨年 4 月の観測データに基づいた研究では、論文にまとめる前に課題となっている部分について議論を進めることができました。これまでの研究では、DLA 集中領域において、その集中度をどのようにして定量的に評価をするかが課題となっていました。今回の滞在ではその点について議論を進め、定量的な評価の方針を固めることができました。 サービス観測のデータ解析では、パラメータの決め方やデータの性質についてサポート・アストロノマーから助言を受け、解析過程で生じた疑問点を解決することができました。

様式 2 (Form 2)

3. この制度について何か御意見がありましたら、お書きください。

(Please provide any comments about this program.)

長期滞在ができるため、議論をかなり進めることができました。ハワイ観測所での滞在は、サポート・アストロノマーの方にすぐに助言を受けられる環境にあるため、データ解析などには非常に有用であると感じました。また、観測所には観測等で多くの来訪者があるため、セミナー等を通じて様々な議論をすることもでき、非常に有意義な滞在でした。交通費や滞在費を考えると、ハワイ観測所へ行ける機会は限られており、滞在型研究者の制度がなければ、今回のような素晴らしい機会を得ることは難しかったと思います。滞在型研究員制度の関係者の皆様に感謝申し上げます。